

KSKP サロン・あべの

NO. 55



とってもハッピーな
Christmas

前日の季節はずれの台風がウソのように晴れ上がった平成二年十二月一日(土)午後一時〜四時、育徳コミュニティセンター研修室に於て、クリスマスの集いを開催した。

いつもの研修室をクリスマスの雰囲気盛り上げるため、委員の他にお手伝いくださる方が早めに集って下さり、会場のセッティングや部屋の飾り付けが始まる。例年のホワイトクリスマスツリー・にこやかに笑うサンタの壁掛け・小物の飾り。そこへ今年は、十一月のサロンの出会で教えてもらった折紙の色とりどりのクリスマスグッズを沢山加えて、楽しい雰囲気がかもしだされた。

隣近所と歓談の中をクリスマスミュージックが静かに流れてへととてもハッピーなクリスマス開幕。

まず最初は、日本留学中のアメリカの青年二人、グラムさんとバックストンさんによるゲームで楽しみ、頭をほぐす。

つづいては、ゼスチャー。この二人の演技はなかなかのもの。全員を笑いの渦に巻き込み、大いにもりあがる。

プログラム三番目は「赤トンボ」の演奏。

花博のさくやこの花館はじめいろいろなところへ出演しているという人気グループで、オリジナルはもちろん最新の「踊るボンポコリン」から演歌にいたるまでレパートリーの広いところも披露して、大いに拍



「赤トンボ」の演奏。

手をとった。

澄んだ歌声、爽やかなリズムの余韻が残る中を赤い服を着たサンタさん（大島功氏）が、大きな白い袋からプレゼントを取り出して一人一人に手渡していく。手渡された

プレゼントを開いた人達からは、喜びの声が聞かれ、座がひときわ和やかに、賑い、へとつてもハッピーなVサロンのクリスマスは終わった。この日の司会は、旭純子さんと石田律氏でした。参加者四五名。

平成2年

さて、どんな「とつてもハッピーな」ことがあったのでしょうか。5人の方に聞きました。

ファッションショーを観て

小 嶺 佐栄子

昨年の十月二三日、あいか彩子先生のファッションショーを見に行きました。

ヨンショー会場に入りました。

場内は沢山の人、障害者等々、大勢な人達であふれておりました。テレビ局や新聞社のカメラマンの人達も取材にきておりました。

市団協よりリフト付きワゴン車「そよかぜ号」を借りまして、ボランティアさんに運転をお願いしました。

私は、立派な会場と人の多さにびっくりしました。

車椅子ごと乗せていただき、初めて遠い所へ出掛けました。車内は広く、二名分の座席の他に電動車椅子二台がゆったり納まり、楽でした。

ビジネスパークMIDシアターに着くと係の人がご親切に誘導して下さいりファッション

さあ、いよいよファッションショーが始まりました。音楽が流れ、照明灯に照らされて、かわいいモデルさん達がカラフルなファッションで登場。障害者のモデルさん達も陽気で明るく踊って、とても楽しかったですよ。きれいだったなあ。

ハンディキャプト達のためにデザインされた洋服等は、よく出来ていました。あいか先生に心から、お礼申し上げます。

障害者のスポーツ大会のビデオでしょうか、大きなスクリーンにいろんな障害を持った人達がスポーツを一生懸命に頑張っておられるのを見て、感動するやら、目頭があつくなるやら・・・私もがんばらなくちゃと思いました。

帰りにロビーでテレビ局の人達がインタビューに来て下さり、感想を聞かれましたので一言のべました。家に帰って夕方のテレビニュースを見ると、テレビに映っているではありませんか。まさかと思っていたので、恥ずかしいやら・・・。

早速、電話がかかってきて「奥さん、見ましたよ」。買い物に出かけると、皆さんから又々「奥さんテレビに映っていましたね」と声をかけられたりしました。私のような者でも皆さん覚えて下さっているんだなあと思いました。「ありがとうございます」と言いながら私は、嬉しく思いました。

ボランティアさん達のお陰です。こうしてファッションショーを観賞出来ました。心よりお礼申し上げます。

楽しい出会い

近藤 千枝子

このところ 寒い日が続いています、皆様お元気ですか。昨年は、楽しいクリスマスパーティーをありがとうございました。さて、私にとっての昨年のハッピーな出来事第一は、六月の末に木口さんお一人で花博へ連れて行ってもらった事です。

そして、十月には、初めてハサロン・あべのVに連れていただき、冨田さんはじめ多くの皆さんと出会えた事です。

今年もどうぞ宜しく、お願いします。



ハッピーな出会い

斉藤 孝文

サロン五四号紙並びにお便りありがとうございました。

上平幸雄さんと南光仁子さんの就学免除のお話を読み、その勉強したいと言う意欲とバイタリティ、実行力には頭の下がる思いがいたしました。

それにつけても人生は、ハッピーな出会いによって一八〇度の転換をするものと言うことがよく分かりました。実は、私もその体験を今味わっているところなのです。

昨年十一月二三日に行われた奈良教育大学の学園祭に、かねてからお願ひしていた天理大学の学生さんに連れて行っていただき、そこで車椅子の障害者の介護をしてもらった工藤さんと云う女性ボランティアに出会いました。早速話かけ、現在橿原市内に転居して来たこと、ボランティアがなかなか見付からずテレビと首っ引きの生活で張り合ひのない毎日を送っていること等々、胸の内を明かしました。すると、橿原市内に女性障害者で、僕と同じく文字盤で会話をする重度の太西さんと云う方が、自立し

て結婚し、その上に子供も二人生まれて生活しておられるから一度連れて行ってあげましょうと云うことになりました。一週間後、大西さんのご主人とボランティアの工藤さんが車で迎えに来て下さり、自宅にお伺いしました。ほんの五分位の所なので二度びっくり。此の大西さんが実行力のあるバイタリティ豊かな人で、現在三七才でありながら夜間中学に週二回通って勉強をしているとのこと。僕にも是非来るようにとすすめられました。僕の両親は、養護学校の中学部を卒業しているのだから今更その必要はないと賛成してくれなかったのですが、僕は学校時代欠席も多かったし、もう一度勉強もしたかったのでお願いすることにしました。昼間は普通高校の先生が、夜間中学の先生に早変わり。一對一の授業でとても分かり易くその熱心さ、明るい生徒達、その上車で送迎迄して下さい。又、いろいろと行事もあると云うことで、今僕は生き返ったような気持ちであります。

丁度ハサロン・あべのVの雰囲気とよく似ており、それも嬉しいことの一つです。これからも人との出会いを大切にしていきたいと切に願っております。

出会い仕掛人

北河内ボランティアセンター

坂本陽子

今年からボランティアセンターでコーディネーターをすることになり、様々な人の出会いを経験しました。

もともと人間が好きで私ですから、その出会い一つ一つが、とても嬉しいものでした。けれど、コーディネーターという仕事の本当に素敵なところは、自分が誰かと出会うだけでなく、他の人に「出会い」の機会をたくさんプレゼントできるといことなんですね。

紹介したボランティアと当事者の方が、単にボランティアと依頼者という関係を考えて、友人同志のようになっていかれるのを見ることほど嬉しい事はありませんでした。

手編みのカーディガンを

ありがとうございます！

柳生幸子

「今年ハッピーだった事」それはNさんに手編みでカーディガンを編んでもらった

事。今までにも友人、知人が「編んであげるわ」と言ってくれた事があったが、一度も実現したためしなかった。Nさんとも思っていたら宅配便で素敵なカーディガンが届きました。

手を通すたびに手編みの暖かさに包まれる様で、ハッピーな気分になります。

あけまして

おめでどう

ございませす

旧年中は、何かとお世話になり、ありがとうございました。

羊年のお正月は、いかがでしたか。

羊は全て役にたち捨てる所がない動物だそう。それで羊に大きいと書いて「美しい」と読む字になったそうです。サロンにあべのと続いて「楽しい出会い」と想っていただけ、今年も委員一同頑張りたいと思っております。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

ハサロン・あべのV運営委員一同

イギリスからのクリスマスカード



175 A Crullant Hill
Cullinan
Notts
12.90

Dear Keith,
Hello again, a
very happy Christmas to
you. This time of the year in England
people are getting ready for
Christmas. It's a busy time, a church
as always. Making good friends.
Many people hear have parties.
Some holidays from work and
school. It is a public holiday.
We all buy presents for family
and friends. Not many
many people go to church at
Christmas, often in England
which crosses Christ out of
Christmas.

The weather is not too cold,
through the season is winter for
an average, except for a few
weeks in the spring - more time
is year will be the last year
in family will not be together for
years.
I will be working, but I don't
to in 2 years as now a doctor
- Medicine in the hospital in
- the wards in the hospital in
and off Wales. I will be home
on the new year.
Since I wrote to you last year
I son (18 yrs) and myself were on
a T.V. advertising our Myobron
ptisophy support group (with
a type of muscular dystrophy)
- the centre of England, 15 people
invited us from the laboratory
client.
I do hope you have a

A very happy Christmas.
In November I delivered 2
babies, one was my niece's baby.
My niece has called the baby
Joshua. He has cataracts on his
eyes, and will have an operation
in his eyes on Tuesday. To make
him see.

Best wishes to you
Mrs: Margaret Bowler



けい子さんへ

こんにちは、クリスマス おめでとうご
ざいます。

イギリスでは今、クリスマスを用意する
頃です。私たちは、キリストの誕生日と
してクリスマスを祝い、神に感謝する教会
の祝祭日です。この多くの人たちはパー
ティーを開き、仕事や学校は公休日です。

私たちは、家族や友人のためにプレゼン
トを買います。また、たくさんの人々がク
リスマスには教会へ行きます。

イギリスでは、しばしばクリスマスのご
とをXmasとも書かれます。それは、キ
リストの十字架をも表しています。

冬なのに、ちっとも寒くないお天気なの
ですが、私たちは春、3月に咲かせるため
にラッパズイセンをたくさん植えました。

今年は、家族が一緒に過せない初めての
クリスマスです。(クリスマスには)私は
働いているでしょう。そして、息子イアン
(23才)は新しい医者として、ウェール
ズのカーディフで働いているでしょう。イ
アンは、新年にはうちにいると思います。

前に手紙で書いた息子ピーター(18才)
と私は、筋ジストロフィー援助グループの
広告でテレビに出ました。イギリスの中央
部では、テレビの広告によって15人のひ
とたちが連絡をしてきました。

11月に私は、2人の赤ちゃんのお産を
手伝いました。そのうちの1人は、私の姪
の赤ちゃんです。姪は、その赤ちゃんをジ
ョシュアと名づけました。彼は、白内障な
のです。だから、目が見えるよう、火曜日
に手術を受けることになっています。

では、お元気で。

マーガレット、ボーラー

援助という仕事

岡 知史

彼女は学生時代はとても優秀な成績だった。そのため特別の奨学金を大学から受けたこともある。そして社会福祉学科を卒業したあと、民間の特別養護老人ホームに寮母として就職した。

とても柔和で朗らかで、おおげさに言えば非のうちどころがないような学生だと思っていたから、ぼくは、その老人ホームの彼女の上司にあたる職員に会ったとき、嬉しくなった。一時的とはいえ、彼女はぼくの教え子だったのである。

たぶん期待を顔いっぱい浮かべて、ぼくは彼女の仕事ぶりをたずねた。だが、その職員の返答は、やや意外なものだった。たしかに彼女は素直で頭も良く、まじめでお年寄りにも優しい。しかし、自分とお年寄りとは「違う」と思っている。そこが残念だ、というのである。

違う？ それはどういうことですか、とぼくは聞いた。大学を出たばかりの若い彼女と心身の弱ったお年寄りとが「違う」のは当り前ではないか。

「でも、人間としては同じでしょ。それが彼女にはわからない。彼女の心の中は、



かわいそうな人を助けたいという気持ちでいっぱいなんですよ。だから、なんとか自分がしてあげなければと思う。助ける側と助けられる側という区別が、はっきりとあるんです、彼女の中には。だからこそ、お年寄りの心がつかめない。

もちろん、彼女は頭のいい人ですから、そういうことは理屈ではわかっている。でも頭だけでわかっているだけでもダメ。そういうことって身体から自然に出てしまうものですよ。おそらくこれは彼女の生育歴の問題だと思えます。いままで挫折を知らずに調

子良く来たんでしよう。だからわからないんだと思いますよ」
「挫折って大切ですね」と、ぼくは、たいてい考えもせずになんか笑いながら答えた。

しかし、本当にそうなのか。挫折を知らずにすめば、それはそれでいいのではないか。だれが好んで挫折を求めらるだろう。とはいえ、挫折をまったく知らない人が人を援助する仕事についたとしたら、援助をうける者にとっては大きな災難だろう。一人よがりの押し付けがましい行為ほど、がまんのないものはないからだ。

「助けてあげよう」などという思い上がった気持ちで援助してはならないというのは、道徳的なルールというより、むしろ心理学的な法則のようなものだと思う。そのような高慢な姿勢があるかぎり、援助のための基本的な人間関係など生まれるはずがないのである。

したがって、いままで挫折を知らなかった人が誰かを援助しようとしても、真剣な人間関係を求めているのなら、必ず挫折を味わうにちがいない。そこで拒絶されみじめな気持ちになるだろう。しかし、そこから、おそらくお互いに対等な人間同志の関係が育っていく。

相手のために何もできないと絶望したところから本当の援助関係が始まると言われる。援助者としての自分に対する幻想が壊されてはじめて、対等な人間として向かいあうことができるのであろう。

ナンペイの

ひとつとふたこと。

リハビリともだち

私は、ほとんど毎日近くの病院へリハビリに通っている。もう通いだして丸二年になる。

「第四腰椎分離症」という、聞いただけでも腰が痛くなりそうなのが医師が下した正式な病名。実際、腰も痛けりや股関節も痛い。おまけに足の先まで痺れてくるという惨憺たる有様だった。

しかしせっせと病院通いを続けたおかげで、どうにか最近になってあちこちの痛みもやわらいできた。そしてその病院通いをした為に、じつにいろいろな人達と接することができたこともこの二年間の収穫だったと思う。言ってみればまさに「けがの功名」。

一般の病院にリハビリに来ていた人達には、私のような生まれながらの障害者はめ

ったにいない。ほとんどが仕事上の事故が交通事故でけがをした人。そして脳卒中などの後遺症でリハビリをしなければならぬ人。もちろん平均年齢もかなり高く、私などまだまだ「若僧」という感じである。

そんな人達のなかでリハビリを毎日している訳だが、周りの雰囲気はと言えばこれが結構にぎやかで、あちらでベチャクチャこちらでベチャクチャ、話しに花が咲く。なかには世話好きの人がいて、私が腰の牽引をするときに先生の代わりに簡単な機械の操作をやってくれることもたまにあったりして、正直「大丈夫かな？」と思いがながらも好意に甘えることにしている。

外来患者だけのリハビリの時間帯でそれ程重症な人がいないこともあるが、それぞれにどこかに「痛み」をもっている人間の心の優しさを感じるひとときでもある。

南光 龍平

おしらせ

二月の 出会 い

日時 平成三年 二月十六日(土)

午後一時〜四時

場所 育徳コミュニティセンター二階

(スロープ・車椅子トイレあり)

内容 「ハサロン・あべのVの五年、

これからの五年」

会費 なし。

問い合わせ TEL: 06-691-1028 (富田慶子)

井 感謝 します 井

カンパ・切手・冊子・メモ帳・クリスマス用品・お菓子・和紙手作りしおり・カセットテープ等、ご協力ありがとうございます。お礼を申し上げます。

十一月末から十二月のカンパ

金二七〇〇円

旭 純子・大島 功、岡崎美智枝、

柿岡 緑、金子花江、木村圭子、

小嶺佐栄子、斉藤孝文、高尾澄男、

中野君江、並松由利子、干場正夫、

松島春子、まんだによしゆき、山村貴司、

山本敏子、匿名五名様。(敬称略)

美智子のこんな話



岸田 美智子

私と甥っ子とのつきあい

毎年、年末年始になると、兄達の家族が帰省して来ます。兄夫婦と甥っ子二人（七才と四才七ヶ月）の四人が帰って来ます。そして、甥っ子の2人と私との付き合い

がいつも新鮮でおもしろい付き合いになっています。

たとえば、私の事を「おばちゃんお姉さん」と呼んでみたり、兄の（お父さん）真似をして「美智子」と呼びます。「美智子御飯食べるか？」とか「美智子何々するか？」とかえらそうに言ってくれるのです。

そして、また色々な事を私に吹きかけて来ます。ジャンケン出来るかとか、縄とび出来るか、などと言う質問を遊んでいると突然なにげなく聞いてくるのです。

もちろん私は「出来ないよ」と答えています。他にも上の七才のゆうちゃんが、ふと聞いてきました。「お姉ちゃん、背の高さ計る時どうしたらいいんやろうな」と突然聞いてくるのです。私は、逆に「どうし

たらいいんやろう」と聞いてみました。するとゆうちゃんが即座に答えてくれたのです。「柱にガムテープでくくりつけたらいよ」などと言ってくれるのです。二人共疑問に思った事は、即座に聞いてくるようです。

車椅子の扱い方などべつに教えた事は無いのですが、二人共、もう押してくれたら、御飯でテーブルに着いた時はだまってもブレーキをかけてくれます。とにかく二人共、自然に付き合ってくれるのです。

でも、これからどんな質問の内容が変わってくると思いますが、それがまた楽しみです。これからもうずっと普通のおばさん、普通のお姉さんでいたいなあと思っている私です。

続・ラッキーな人生

上平 幸雄

の問題を解決しなければなりません。一つは通学の問題。そしてもう一つは、高校側がひとりで歩けないばかりを、受け入れてくれるのかどうか、ということでした。

中学では、朝は父親に帰りは先生に、それぞれ自動車です。

でもらっていました。しかし、高校となると朝はともかく、帰りをどうするかが問題になりました。そこでしかたなく、母親が自動車の免許を取ることになりました。四十近くになつ

たので、何回補習をしたのかしれません。が、なんとか免許を取り、その用の自動車も買ってくれました。そして高校の方からも、入試に合格さえすれば入学は拒まないという返事をもらえました。かくして高校受験を経験するのですが…。

高校進学を「夢」ではなく現実のものとするためには、二つ

自分では、ある公立高校に行く
と決めていたのですが、スベ
リ止めのつもりだった私立高校
の受験に失敗してしまいます。
偏差値から考えて絶対大丈夫な
はずだったのに、落ちてしまっ
たのです。すごいショックを受
けましたが、逆にこれが励みに
なって、一月後の公立高校の受
験にはみごと合格し、富田林市
にあります大阪府立河南海高等学
校に入学することができました。
初めて中学に行ってからわずか
一年半後、昭和四十八年の春で
した。

こうして入った高校でしたが、
ここでの三年間は今思うと、本
当に無駄に過ごしてしまいました。
まるで三年間がずっと五月
病のようなもので、落第しない
程度に適当に勉強をして、後は
ポーツとして暮らしていました。
中学でがんばりすぎたせいかも
しれません。今でいう燃えつき
症候群のようなものだったのか
もしれません。

なんとなく過ごした三年間で

したが、高校の次は大学へ進学
するのだと自然に決めていまし
た。しかし、こんなぼくが入れ
る大学などあるはずもなく、卒
業後二年間も浪人しましたが、
結局挫折してしまいました。大
学に行つて何かがしたいとい
よりも、働くこと、社会に出る
ことの方が怖かったのだと思
います。

二十歳を過ぎてやっと働く気
になったものの、障害者を雇っ
てくれるようなところはありま
せん。このとき初めて、自分が
障害者であることを思い知らさ
れたのです。学校なら勉強さえ
できれば、体に障害があるとか
ないとかは別に問題ではありま
せんでした。しかし、いざ社会
に出て働くとなると、障害者は
不利で、自分はその障害者だっ
たのです。

しかたなく、何か手に職をと
も思いましたが、とりあえず簿
記の資格を取ろうと思ひ、通信
教育の準備していました。ちょ
うどそのとき、父の知り合いか

ら身体障害者職業訓練校のこと
を知らされたのです。訓練校へ
行けば簿記の資格が取れる。し
かも、訓練手当がもらえるなど
の話が聞きました。しかし、訓
練校へ行きながら、自動車の運
転免許を取る人が多い、という
話が決め手になりました。昭和
五十三年四月、大阪身体障害者
職業訓練校の経理事務科に入
ります。

訓練校に入った当初は、大学
受験も就職もうまくいかなかっ
たという挫折感と、自分自身が
障害者だったということへの絶
望感とでいっぱいでした。しか
し、そんなぼくを救ってくれた
のは、まわりにいる人たちでし
た。障害者であるにもかかわらず、
みんな本当に明るかったの
です。

よく遊び、よく学びました。
寮に入ったこともあって、毎日
のように喫茶店に行き、インベ
ーダーゲームに興じました。酒
とのつきあいもこのときからで
す。簿記の資格も、日商の二級

と全商の一級を取りました。和
文タイプや、そろばん、計算機
の簡単なプログラムなども習い
ました。そして、いろいろな人
の手助けをかりて、自動車の運
転免許も取ることができました。
自分に自信を取り戻すことがで
き、修了時には大阪府知事賞を
いただくなど、訓練校でのこの
一年は本当に充実したものでし
た。

ところが、いざ就職となると、
車椅子を使っているぼくには、
やはり、なかなかみつかりませ
んでした。知り合いのついで、
やっとプラスチックの家庭用品
を扱う小さなメーカーに就職でき
たのは、昭和五十四年も五月に
なっていました。

初めて働いた会社ですから、
それなりに思い出もありますが、
とにかく給料が安すぎました。
二年間働きましたが、このまま
この会社に何年いたところで、
一人前には扱ってもらえないと
判断し、退職しました。たとえ
給料が安くても、働けるだけで

もいいじゃないか、と両親や知り合いからもひどく非難されました。次の就職口にあてがあつたわけでもありません。しかし不思議と自信があつて、きつとなんとかなると思つていました。

ある日、新聞を見ていて、大阪府が身体障害者を対象に採用試験を実施する、ということを知りました。さっそく、職安に問い合わせた。さつそく、職安に問い合わせた。さつそく、職安に問い合わせた。さつそく、職安に問い合わせた。



「就学免除」を讀んで

いたですと、この試験は非常に難しいから、どうせ受けてもダメだと思つたそうです。ダメでもともとだから、受けるだけでも受けさせてくれと、願書ももらいました。しかし、職安のこの担当者の勝手な判断が、危うくぼくの就職のチャンスを奪うところだったので。

たのです。昭和五十六年九月一日付けで大阪府に採用された五人の中のひとりに入つていたのです。以来、大阪府の職員として仕事をし、十年目に入りました。その間、大阪車いすガイドマップを作る会の活動に参加。社会福祉主事の資格や、図書館司書の資格も取りました。そしてなにより、結婚をし、子供までできたのです。本当にラッキーで、運のいい人生を歩んできたものだと思います。

就学免除制度がどんな成立で出来たのかは知りませんが、何にも染まっていな子供時代から、健常者と障害者との間の理解を教えようとしなないのは、これは多分大人側の子供たちへのとても大きな罪ではないだろうかと思つています。

その為に学校側にお金がたくさん掛つても、人材が必要になつたとしても、その為に我々は税金を毎月支払つていのですから。政治家の飲食代にばかり無駄遣いしないで、そちらの方にも回してもらいたいものです。学校とは、子供たちに必要以上の遠回りな人生を過すためにあるものでは決してないはず。

編集後記

サロン紙掲載の毎月の会員の記事は、出席されなかった方々にその内容や様子をお知らせしようと編集部で作成しています。

11月の「たのしいおりがみ」の記事も編集部で内容をまとめ「おりがみ」の図示も編集部独自で作成したものです。ご了承下さい。(T)

<サロン・あべの>第55号

編集：サロン・あべの 運営委員会 定価 100円

(〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028. 富田慶子)

印刷：セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.